Title：【7 月 8 日開催】CEFJ Members Meeting イベントレポート

去る 2020 年 7 月 8 日日仏経済交流委員会(CEFJ)は、日本の Space Tech スタートアップ・iSpace をゲストに迎えたウェビナー “**Planet 6.0**”を実施しました。本ウェビナーには、日仏 Members 企業を中心に多くの参加者が集まりました。

1. 日仏経済交流委員会(CEFJ) / Startups Creativity Challenge(SCC)の紹介
2. iSpace の紹介
3. イベントレポート
4. 次回以降のイベント予定

---

1. 日仏経済交流委員会(CEFJ) / Startups Creativity Challenge(SCC)の紹介

日仏経済交流委員会(CEFJ)は、1997 年の設立以降グローバル環境を背景にした日仏ビジネス界の相互理解の深化と経済関係の発展における貢献を目指し、パリとイルドフランス地方を中心にフランス全土、欧州、日本各地アジアの一部にまで広がる巨大なネットワークを持つ仏経済機関です。

20 年以上にわたり、様々なプログラムや情報の提供を通じて日本・フランス両国の企業におけるビジネス交流の発展に関わり、現在では両国合わせて 157 の会員企業が参加しています。

(Image Credit: CEFJ)

(Image Credit: CEFJ)

近年のフランスのスタートアップエコシステムの盛り上がりを受けて、CEFJ では日仏のスタートアップを一同に介し、CEFJ 会員のメンバーとともに新しいイノベーションを生み出すプログラム、**“Startups Creativity Challenge(SCC)”**を 2019 年から 2022 年初頭まで全 3 回実施し、両国のさらなる関係性の強化を目指しています。

2019 年 10 月に開催された第一弾では、CEFJ 会長 Didier Kling 氏と会長代行 Pierre Kuchly 氏が、共同議長 出井 伸之氏(元ソニー CEO、現クオンタムリープ Founder・会長)、Anne Lauvergeon 氏(元 AREVA CEO、現 ALP CEO)をお迎えし、日本・フランス両国から 128 名が参加のもと、4 社の大企業と 9 社のスタートアップが一同に介しました。フランス最大のインキュベーション施設・Station F にて開催された本イベントは、両国の交流を通じて新しいイノベーションをどのように生み出していくのかについて活発な議論が交わされ、大きな盛り上がりを見せました。

2020 年 12 月にパリにて予定されている第二弾は、第一回からさらに両者の連携についてより実践にもとづき具体化した形での実施が計画されています。今後 SCC をきっかけに大企業とスタートアップの連携がさらに加速し、革新的なイノベーションを生み出すことが期待されます。

---

2. iSpace の紹介

https://www.youtube.com/watch?v=wwBZwxdMrDs (日本語)
https://www.youtube.com/watch?v=r7CW92i0z_o (英語)

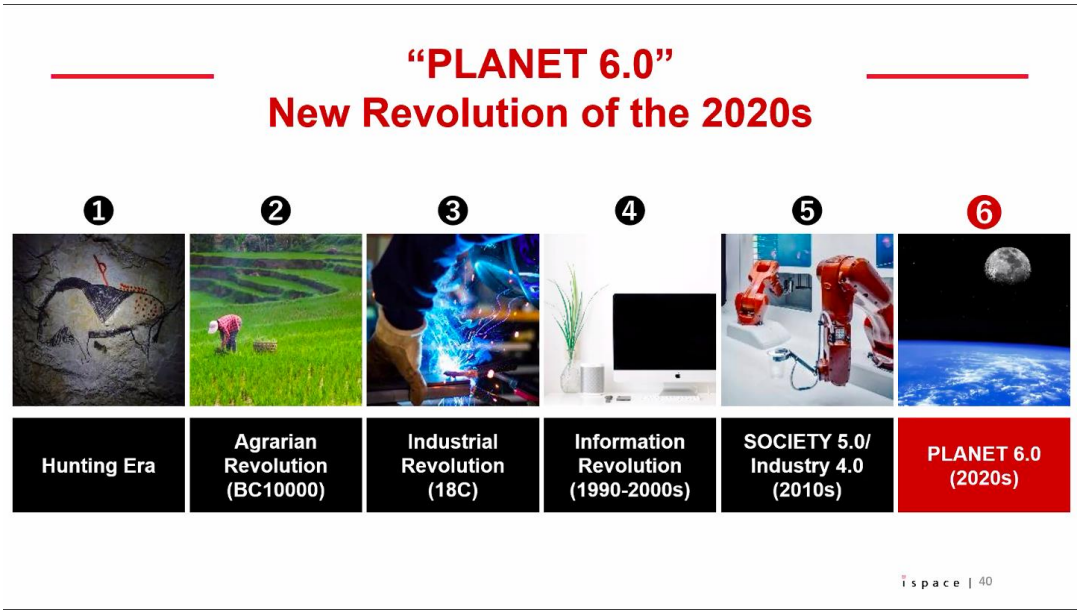
iSpace は、「人類の生活圏を宇宙に広げ、持続性のある世界を目指す」宇宙スタートアップ企業です。超小型宇宙ロボティクス技術を通じて月面の水資源開発を先導し、宇宙で経済が回る世界の実現を目指しています。

人口の爆発的増大による資源の枯渇や、気候変動によって生活圏としての地球の環境は悪化の一途を辿っているため、現在月や火星でのインフラ構築や宇宙開発を目指した**“Space Tech”**が世界で盛んに注目を集めています。iSpace では、宇宙に構築したインフラを活用することで様々な分野における新規ビジネスチャンスを民間企業に提供し、月を地球の経済・生活圏に取り込むことを目指しています。

iSpace は東京本社の他に、カリフォルニア州の NASA Ames Research Park、そしてヨーロッパオフィスとしてルクセンブルクにもオフィスを持ち、世界中にビジネスを展開しています。iSpace は CEFJ に会員企業として参加しており、2020 年 12 月の SCC 開催に先立って、これまでの国際的な企業との連携に関する知見や経験を共有していただきました。

3. イベントレポート

2020 年 7 月 8 日 パリ現地時間の 10:30 より開始した本イベントには、日仏の CEFJ 会員企業、両国のイノベーションに関心を持つ企業・パートナー機関がオンライン上に集いました。

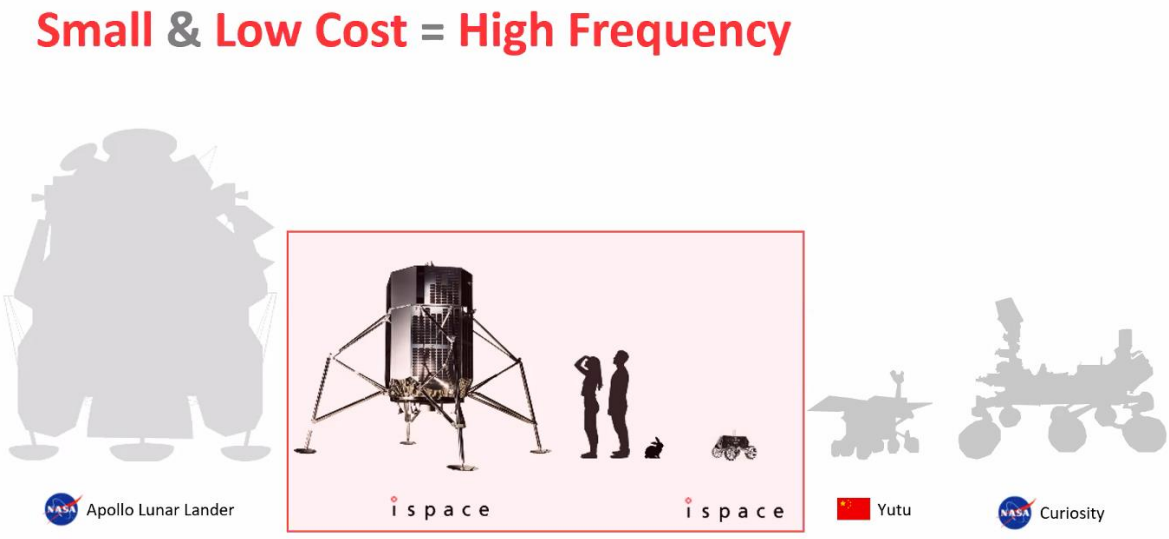


今回 iSpace より、佐藤 将史氏、朝妻 太郎氏の両名にご登壇いただき、iSpace が推し進める月面開発事業の外観と、2020 年以降の実現が期待される宇宙開発の革新 "PLANET 6.0"についてお話しをいただきました。

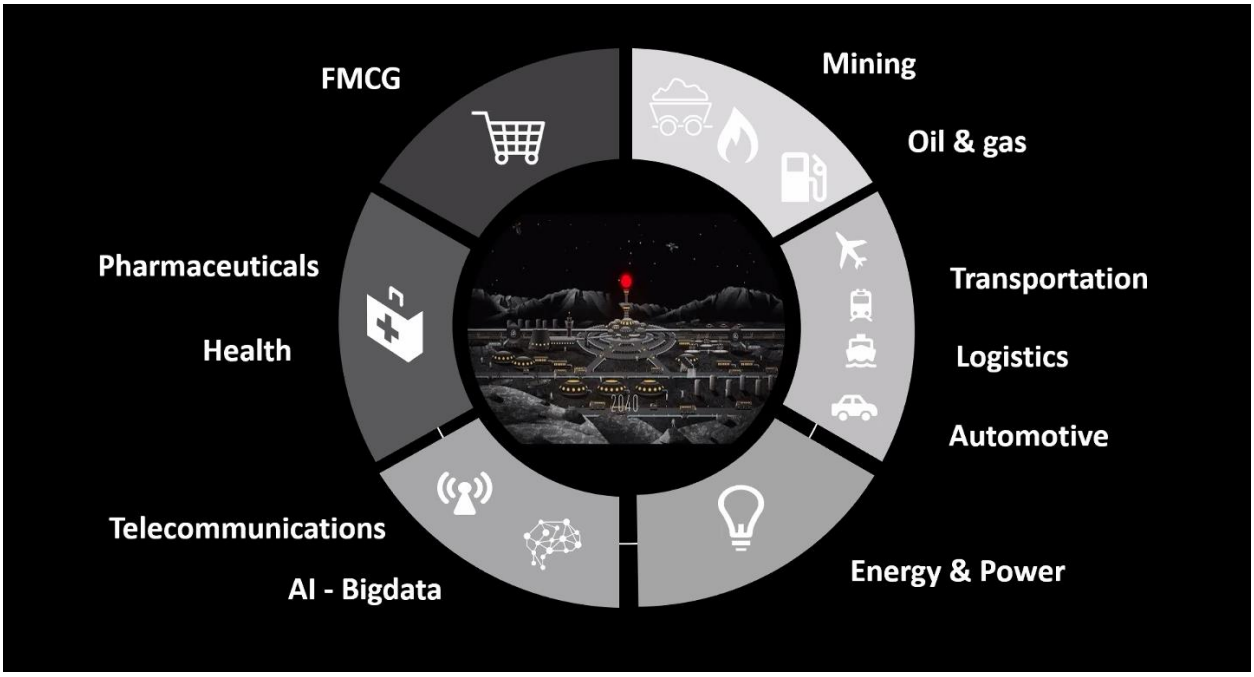
iSpace は、月を地球の経済・生活圏に取り込むことで、月面に新しい経済を創造する "Moon Valley"の 2040 年の実現を目指して、関連技術を開発し、プロジェクトを推進しています。2010 年の設立以降着実に事業を拡大し、現在世界 3 カ所のオフィスにいる 13 か国の国籍の 127 人(2020 年 7 月時点)の従業員をもつまでに成長しています。

iSpace ではこれまで Google Lunar XPrize のファイナリスト５チームに入った HAKUTO を運営した実績があります。このプログラムの運営によって得た月面探査のための技術やノウハウをもとに、2023 年までに月着陸と月面探査という 2 回のミッションを達成するための次なるプロジェクト“HAKUTO-R”を推進し、月の情報と地球―月輸送サービスの構築に向けた技術検証を行っています。

*Google Lunar XPrize：2007 年より開始した民間による最初の月面無人探査を競う国際コンテスト。Google 共同創業者の Larry Page などが理事を務める XPrize Foundation がによって運営され Google がスポンサーとなり開催されたが、勝者のないまま 2018 年に終了。



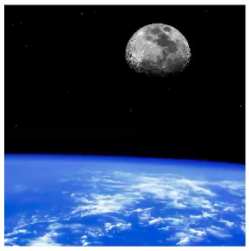
独自の技術を用いて開発した月面着陸用の宇宙船 “Lunar Lander”と、月面を走行する自動運転車 “Lunar Rover”は従来のものに比べてサイズが小さく安価であるため、高頻度での月面探査が可能であるという強みがあります。



従来 SpaceTech は様々な技術を組み合わせる必要があるため、多くの大企業の支援を必要とするケースが散見されます。iSpace も HARUTO-R の実施、そして Moon Valley の実現に向けて製造業や IT、メディアなど多くの企業とパートナーシップを結んでいます。各社の叡智を結集し、宇宙インフラの構築を通じた持続可能な社会の実現を目指しています。

またパートナーシップは国内のみならず、国家を挙げて宇宙開発に注力するルクセンブルグやアメリカの団体や企業・研究機関とも広いネットワークを構築しています。

PLANET 6.0

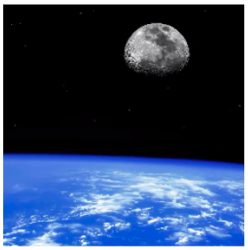


Next vision beyond globalism

Create one ecosystem of Earth-Orbit-Moon in which we deeply learn about the Earth by knowing and using space

2000 年代以降の情報技術の発展により、地球を一つの共同体とみなすグローバリズムが急速に進行しました。一方 Planet 6.0 の世界では、宇宙空間を把握し利用することで、地球と月の間に一つのエコシステムが形成されると考えられています。

What Planet 6.0 should bring



PLANET 6.0

Democracy	Democratization for our sustainable space development
Industry	Creating a new frontier business in/outside of the world
Society	Igniting people's passion to aim at high-level S&T and pioneer new frontiers

より具体的に見てみると、Planet 6.0 は、以下の 3 つの切り口から人類の生活を変えるのではないかと考えられています。

- Democracy: 国際機関や SDGs の元、持続可能な開発のために宇宙が “民主化”される
- Industry: 地球外でこれまでにない破壊的な技術・ビジネスが誕生する
- Society: 高度な科学技術の開発を目指す人々の情熱に火をつけ、新境地を切り開く

iSpace が実現を目指す Moon Valley をはじめ、宇宙開発は今後より大きな注目を集め、新たな産業を生み出しつづけるでしょう。新たなフロンティアを築くために、高いビジョンをもったスタートアップと大企業の協業は今後ますます増加するのではないか、という期待がもたれます。

最後に Q&A セッションが実施され、オンラインツールのチャットボックスに集まった質問を元に様々な議論が展開されました。最先端の宇宙開発に触れるまたとない機会に、CEFJ メンバーから多くの質問が寄せられました。

---

4. 次回以降のイベント予定

CEFJ では、2020 年 12 月の SCC に向けて様々なウェビナーやオンラインコンテンツの配信を予定しています。2020 年 9 月からは、2 週間に 1 度のウェビナーを企画しています。日仏から寄せられたトピックに関する有識者をお呼びし、両国のさらなる共創を加速させてまいります。皆様奮ってご参加ください。

イベントレポート執筆：RouteX Inc.

RouteX Inc.（ルーテックス）は「情報の非対称性が無い世界へ」を Mission に掲げ、世界各国のスタートアップエコシステムに関する調査と、国内外のイノベーションを加速する事業をおこなっています。これまでに様々な大企業・官公庁・スタートアップと連携し実績を積み重ね若くダイナミックなスピリッツで活動を広げています。

ホームページ：https://routexstartups.com/